

会 議 録

会議の名称	令和7年度 第1回 健康ひゅうが21計画（第3次）推進会議			
開催日時	令和7年8月23日（金） 19時00分～21時00分			
開催場所	委員会室			
出席者	「健康ひゅうが21計画」策定委員会委員・「健康ひゅうが21計画」推進委員			
	日向市東臼杵郡医師会 甲斐 史朗	日向市・東臼杵郡歯科医師会 長友 秀澄	日向市区長公民館長連合会 田邊 貞芳	日向保健所 上原 千枝
	日向市・東臼杵郡薬剤師会 日高 篤子	日向市食生活改善推進協議会 増本 稲子	日向市社会福祉協議会 黒木 有紀	日向商工会議所 甲斐 省伍
	日向市養護教諭部会 菊池 沙耶	日向市保育協議会 橋本 靖代	栄養士会日向事業部 黒木 直子	日向市スポーツ推進員協議会 那須 富栄
	九州医療科学大学 松田 智香子	健康長寿部 矢野 英生		
	事務局			
	健康増進課 黒木 照代 齊藤 愛			
議題	・委嘱状交付 ・委員紹介 ・会長・副会長選任 ・議事 （1）健康ひゅうが21計画（第3次）の概要について （2）令和7年度各団体の取組について （3）その他			
会議資料の 名称及び内容	・会次第 ・健康ひゅうが21計画推進委員名簿 ・健康ひゅうが21計画」推進会議設置要綱 ・資料1 令和6年度取組状況・今後の課題について ・資料2 令和7年度取組について ・資料3 日向市民を健康にするための十二箇条チラシ ・資料4 広報ひゅうが8月号 特集ページ ・資料5 健康づくり応援フェスタ2025チラシ			

記 録 方 法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会 議 内 容	
1 開 会 2 委嘱状交付 3 委員紹介 4 健康長寿部長あいさつ 5 会長・副会長の選任 6 議事 （１）健康ひょうが 21 計画（第 3 次）の概要について 「健康ひょうが 21 計画（第 3 次）」は、令和 7 年度（2025 年）から令和 18 年度（2036 年）までの期間で、日向市の健康づくりの指針となる計画。国の「健康日本 21（第 3 次）」の考え方を踏まえ、これまでの取り組みの評価や新たな健康課題を反映して策定した。基本理念は「ひとりひとりが健やかに自分らしく輝くために～みんなで起こそう日向の健康革命～」であり、市民全体の健康寿命延伸と生活の質向上を目標としている。 計画の基本的な方向性は、個人の行動と健康状態の改善、社会環境の質の向上、ライフコースアプローチを踏まえた健康づくりで、生涯を通じた継続的な健康推進を目指す。特に生活習慣の改善や生活習慣病の発症予防・重症化予防、生活機能の維持・向上が重視されている。 第 2 次計画の評価では、48 項目中 33.3%が悪化傾向にあり、特にがん検診の受診率低下や心疾患の死亡率増加、睡眠不足などの課題が挙げられている。食事・栄養・体重、飲酒、喫煙の分野では改善を示す項目がなく、これらの分野での対策強化が必要。 栄養・食生活、身体活動・運動、休養・睡眠、飲酒、喫煙、歯・口腔の健康、健診（検診）の 7 つの分野と、乳幼児期・学童期・思春期、青年期・壮年期、高齢期の 3 つのライフステージに合わせた健康づくりの取組を推進していく。 目標達成のためには、個人や家族、地域団体、市の三者が連携し、健康づくりに取り組むことが重要。計画推進体制としては、市を中心に教育機関、民間団体、保健・医療関係機関、地域団体が連携・協働し、計画の推進と進行管理を行う。 PDCA サイクルを活用し、計画の実行、点検・評価、改善を繰り返すことで、効果的な健康づくりを目指す。推進会議では、点検・評価を行い、課題を共有し改善を図る。 （２）令和 7 年度各団体の取組みについて 【日向市東臼杵郡医師会】 医師会と日向市の健康増進課が共同で作成した健康啓発ポスターを、市内の医療機関や公共施設など	

市民の目に触れる場所に多数掲示し、健康意識の向上を図っている。ポスターにはQRコードが付いており、読み取ると市のホームページで詳しい情報が得られる。内容は日向市の健康課題を示しており、医師会理事会のチェックも済んでいる。また、日向市の特徴を活かしたオリジナルの健康体操（ロコモティブシンドローム対策）を作りたいと市長に提案したが、現時点では具体的な進展はない。今後、市の歌手による作詞作曲なども検討しながら、市民が楽しめる健康体操の実現を目指している。

【日向保健所】

日向入郷地域・職域連携推進協議会など各協議会の中での情報共有、連携を図っている。また、健康増進普及月間におけるチラシの配布や宮崎県ベジ活応援店の登録・ベジ活キャンペーンの実施などを通じて啓発活動をしている。日向保健所管内では、食塩摂取過多、平均歩数が少ない、飲酒量が多い、喫煙率が高いことが課題になっている。

【日向市・東臼杵郡歯科医師会】

例年通り、幼稚園・保育園から高校までの学校検診をルーティンで実施している。幼稚園・保育園児にはフッ素洗口の指導も行っている。今後は成人や高齢者の健診も追加していくことを検討している。将来的には健診に加え、予防法や治療法の普及、治療への誘導に力を入れ、歯の健康維持と機能回復を目標に取り組みたいとしている。

（会長）

これまでの2名の発言内容はポスターの左側に網羅されている。特に日向市の幼児・学童期の虫歯有病率は全国や県平均より高く、市内でも特に虫歯率が高いことが示されている。また、日向市民は塩分過多や野菜摂取不足の傾向があり、これらの課題についても積極的に情報発信や対策を進める必要がある。

【日向市・東臼杵郡薬剤師会】

薬剤師会の主な活動は三つある。まず、熊本大学の薬草専門家と協力して年2回行う薬草観察会を実施し、今年度は薬草ガイドブックの発売も予定している。次に、学校薬剤師として薬物乱用防止教室を行い、学童期からの心の健康や薬物問題への教育・支援に取り組んでいる。最後に、地域協力でカモミールティーの販売を通じてリラックス効果や心の健康促進を目指している。今後、健康まつりなどのイベントで血管年齢測定なども行う予定である。

【日向市区長公民館長連合会】

6年度の取り組み状況として、グラウンドゴルフや100歳体操が挙げられている。日向市内には90以上の自治区があり、それぞれの自治公民館で高齢者を対象に健康促進や交流を目的とした活動（グラウンドゴルフやカラオケなど）が行われている。これらの活動は毎年継続されており、区長公民館連合会は各区の連絡調整や大会の支援を通じて、地域の実情に応じたレクリエーション活動を推進している。

【日向市食生活改善推進協議会】

令和7年度も例年通り、健康推進員の資質向上のため定例会を開催し、健康情報の発信や啓発活動を行う。健康増進課と連携し、塩分やコレステロール、高血圧などをテーマにした講習会と調理実習を

地域の公民館や高齢者向けに実施し、年間 105 回、計 265 人の参加を予定している。また、若者世代の参加が少ない課題があり、親子での食育講習会を通じて若年層の参加促進を図っている。さらに、推進員の高齢化や会員減少も問題で、広報での募集により 12 名の応募があった。今後も会員増加を目指し、地域住民への支援を拡充する計画である。

【日向市社会福祉協議会】

月 2 回の買い物支援やご飯倶楽部の推進、身体活動として生き生き 100 歳体操のフォローアップ研修を実施している。年 2 回発行のフリーペーパー「ぼちぼち」や 100 歳体操プラスワン活動も支援。心の健康面では、月 1 回のコミュニティカフェを市内 4 か所で開催し、在宅介護者の会や思いやりの会も定例開催している。居場所作りとして世代を超えた安心できる参加場所や学習支援を行い、口腔健康は医師会と協力してサロンなどで口腔ケアを実施。課題は次世代ボランティアや地域活動担い手の育成・確保、有償ボランティアの財源確保、男性の地域参加促進、コミュニティカフェ運営のサポーター育成、高齢者・認知症当事者の移動手段確保、支援が必要な世帯への周知である。

【日向商工会議所】

令和 7 年度の取り組みとして、経済産業省から「健康経営優良法人 2025」の認定を受け、全職員を対象に社会保険協会の巡回相談を実施した。会員企業約 1500 社に向けて健康診断受診事業も行い、前年より受診者数が増加している。健康診断を通じて生活習慣改善を促進し、12 月には広域連合大会を開催予定で、福利厚生の一環として継続実施する。地域の健康課題としては、飲酒を伴う介護問題が多く、課題認識を深めている。

【日向市養護教諭部会】

今年度は小児生活習慣病予防検診を実施し、要管理児童生徒への栄養相談を推進する予定である。栄養教諭による食育授業や歯科検診後の治療勧告、保健指導も行っている。運動面では熱中症対策を実施しているが、外遊びが十分に進んでいないことや運動量の差が課題となっている。また、中学校区でメディアコントロールや薬物乱用防止教室も継続している。睡眠不足や生活リズムの乱れが学校生活に影響を与えている現状も報告されている。

（会長）

薬物乱用は最近社会問題となっており、日向市でも他人事ではなく、いつ起こるかわからないため、しっかりと対策を講じる必要があると懸念している。

【日向市保育協議会】

今年度、本保育園・保育所全体で、保護者や地域向けに子どもと楽しめる釣り場や遊び場の紹介を行い、健康的に外遊びができる環境づくりに取り組んでいる。栄養バランスの良い給食やおやつのレシピも紹介し、食育も推進。保護者に給食内容を見てもらえるように工夫し、乳幼児の健康診査受診の声かけも徹底している。一方で、地域全体では保育園に通わない子どもや小学生が思い切り遊べる場所が不足しており、日陰や駐車場の少なさ、近隣環境の制約から自由に遊べない課題がある。今後は自然を活かした遊具のある公園の設置を望んでいる。また、職員 144 名を対象に 9 月にゲートキーパー研修を実施予定。情報発信は紙媒体からホームページ活用に取り替え、多くの人に見てもらおう工夫をしている。健康面では、虫歯予防の歯磨き指導や年中・年長児の歯科検診を継続し、検診後は保護

者に受診や治療の声かけを行っている。

【宮崎県栄養士会日向支部】

栄養士会は、県内の県南から県北までの病院や施設、保育所などで活動しており、特に「適塩」の推進に力を入れている。塩分は調味料だけでなく、加工食品やお菓子、麺類など「見えない塩分」も多いため、これらの啓発を強化している。特定健診の説明会では、塩分摂取に無自覚な人が多いことが分かり、見えない塩分の重要性を伝えている。次に野菜摂取については、「ベジ活運動」として、飲食店などで1食あたり100g以上の野菜使用を推奨し、調査も行っている。保護者には乳児健診時に野菜の重要性を伝え、調理法の工夫も指導。生野菜だけでなく温野菜も摂るようPRしている。さらに高齢者の栄養では、食が細くなり筋力低下が起きやすいため、タンパク質摂取の重要性を教室などで伝えている。若い女性の痩せ問題にも取り組みたいが、話す機会が少なく課題となっている。

（会長）

見えない塩分の重要性は大きい。日向市は味が濃い食文化で、住民はそれが当たり前と感じて育っているため、味の濃さを見直す考え方を变えるのは難しいが、非常に意義のある取り組みであり、頑張っている。

【日向市スポーツ推進員協議会】

キッズ教室やスポーツ教室、バリアフリー教室、体力測定会などを継続していますが、参加者が少なく、市民の健康課題の把握が難しい状況。10月4日に日向市のサンドームで体力測定会を開催し、多くの人に参加して健康への関心を高めてもらいたいと考えている。また、サンドームに来られない人のために、公民館など身近な場所での体力測定も検討中である。

【健康増進課】

第3次健康計画の周知啓発に力を入れており、「広報ひゅうが」8月号に特集ページを掲載した。9月にはイオン日向店でパネル展示を初めて実施し、10月にはオール日向祭にも参加予定。また、各地区で健康課題に応じた健康講座を開催しており、8月に向江町で実施、10月には富高地区での開催を計画している。さらに、10月に「健康づくり応援フェスタ」を予定しており、みやざき健康キャラバン隊と連携して心電図モニターチェックや適塩スープの試食などの健康イベントを計画中。

（健康長寿部長）

日向の健康づくりについて、各団体が良い取り組みをしているが、さらに効果を高めるためには連携が重要だ。特に若い世代と接点を持つ場を設けるなど、参加者を増やす工夫が求められている。健康増進課に相談しながら、できる範囲で協力し合うことで、より良い成果が期待できるのではないか。

（会長）

栄養士会、食生活改善推進員協議会や保健協議会、歯科医師会などが連携して健口体操や虫歯治療率向上に取り組むことは効果的ではないか。一方で、人員不足や若者の参加率の低さなど課題もあり、集まりにくい現状を踏まえ、参加しやすい方法を模索する必要がある。

スポーツ推進協議会の体力測定を企業の福利厚生として案内できる可能性があり、チラシやポスター

の提供をしてみてもは。

【日向商工会議所】

都城では既に企業向けに実施しているため、日向でも同様の取り組みを進めたい。

(3) その他

【健康増進課】

「健康ひゅうが 21 計画」の周知啓発に協力していただける機会がある場合は、健康増進課に連絡をしてほしい。健康講座の依頼なども歓迎している。各団体で情報共有を行い、意見や要望があれば健康増進課に伝えてほしい。

【学校法人順正学園 九州医療科学大学 社会福祉学部】

健康日本 21 第 3 次計画に基づく日向市の計画は、最初の素案は「つまらない」と感じられたが、その後「攻めた」内容に改良され、より効果的な取り組みが期待されている。今後は従来の継続的な活動だけでなく、地域の健康課題に対して積極的かつ挑戦的なアプローチが必要であり、特に幅広い年代層に対して「対象者を捕まえに行く」能動的な方法が重要とされる。1 年や 2 年で終わるものではなく、12 年間の長期的視野で取り組み、100 年先の健康な日向市を目指して取り組んでいくことが重要だと思う。

7 閉会